

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

(現状)

- ・児童の学習態度や生活態度は、落ち着いている。集団行動における規律は定着し、主体的な実践力、ねばり強く努力する態度、友達と励ましあって自分も挑戦を続けようとする態度などに大きな成長が感じられる。人事異動によって主任らが入れ替わったが、若手教員が先頭に立って活躍する場が増え、学校の総合力は衰えてはいない。大谷田小学校としての一体感を更に上げていきたい。
- ・低学年の学力以前の課題（規範意識、集中力、正しい発音発声など）が顕著に増えている。
- ・31年度完全実施の英語を先行して30年度から70時間で試行する。教師の指導力の向上を図る。
- ・保護者や地域は、学校に協力的である。30年度はコミュニティスクール通算6年目となる。新規に走らず、目的の確認、実践の改善を進めたい。

(成果と課題)

重点的な取組事項－1 学力の向上

- 成果
 - 区学力調査（4月）と校内再調査（12月）の通過率を達成した。
 - 国語 92.6%（4月） → 94.2%（12月）
 - 算数 93.5%（4月） → 95.0%（12月）
- 課題
 - ・新学習指導要領の先行実施に伴う研修を充実する。（英語・ICT活用の授業力向上）
 - ・読み書き、基礎知識の定着を重視し、自ら学ぶ意欲と態度を育てる。
 - ・言語表現活動、正確な読解力、既習を活用する力を伸ばす。（課題解決型の学習を重視）
 - ・家庭学習の習慣化について啓発を続け、質と量を工夫改善する。
 - ・特別支援教室との連携を密に行う。
 - ・区の学力向上施策、本校の学力向上策を一丸となって継続する。

重点的な取組事項－2 体力の向上

- 成果
 - 体力合計点において、全学年、都平均値、全国平均値を上回った。
 - 例年著しく低かった「握力」においても、全学年、都平均値、全国平均値を上回った。
- 課題
 - ・人工芝、握力計を活用し日頃の運動への更なる意欲向上と継続を図る。
 - ・握力・ソフトボール投げ・上体そらし・持久走は、引き続き重点的に指導する。
 - ・虫歯の治療について再三勧告したが、保護者の理解が得られなかった。

重点的な取組事項－3 保護者・地域との連携協力による教育活動の充実

- 成果
 - あいさつの習慣化（CS重点目標）学校評価「よい」93% 児童自己評価「よい」74%
 - 日常的な保護者・地域との連携のおかげで、いじめや交通事故を未然に防止できた。
- 課題
 - ・保護者からの評価票の回収率88%と改善の傾向を維持している。
 - ・コミュニティスクールを充実させていく。
 - ・オリンピックパラリンピック教育で環境、人権尊重教育にも外部人材の力を借りたい。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要重点的な取組事項－1 学力の向上

- 4月の区学力調査の通過率85%以上、年度末の校内再調査の通過率90%以上とする。
 - ①基礎・基本の定着
 - ・学力調査の結果分析を活かし、活用する力を伸ばす指導の日常的実践
 - ②小中連携を通して指導力の向上
 - ・学力向上委員会を核に、学力と学習意欲を高める取り組みの共通実践
 - ・児童が主体的に対話を重ね、深く学ぶ授業を目指した指導法の工夫改善

重点的な取組事項－2 体力の向上

- 全国体力調査8種目の結果について国平均を維持し、握力についても都平均以上とする。
 - ①基礎体力の向上
 - ・1日60分運動の推進と週二回の朝の体力づくりの充実
 - ②学校保健行動計画の実施

重点的な取組事項－3 保護者・地域との連携協力による教育活動の充実

- 礼尊律（礼儀・人尊・規律）の習得について、CSによる家庭教育への提言支援
 - ①あいさつの習慣化（コミュニティスクール重点）
 - ②保護者、地域人材との連携
 - ③校舎内外の環境美化
 - ④子供の生活の安全見守り

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力の向上

- 数値目標 4月の区学力調査の通過率85%以上、年度末の校内再調査の通過率90%以上とする。
- 実施結果 区学力調査（4月）と校内再調査の結果、目標値通過率（第一学年を除く全員）は、
国語 90.6%（4月） → 93.9%（11月）
算数 91.9%（4月） → 91.3%（11月）となっている。
- 課題と解決の方向性
 - ・新学習指導要領の先行実施に伴う研修を充実する。（英語・ICT活用の授業力向上）
 - ・読み書き、基礎知識の定着を重視し、自ら学ぶ意欲と態度を育てる。
 - ・言語表現活動、正確な読解力、既習を活用する力を伸ばす。
 - ・特別活動が充実した一方、授業時数も増え教育課程が満杯の状態、学校で読書や補充学習が十分に実施できない。家庭学習の充実に指導の工夫が必要である。
 - ・区の学力向上施策、本校の学力向上策を一丸となって継続する。
 - ・児童を多面的に捉え、個の実態把握、児童理解をこれまで通り重要視する。
 - ・特別支援教室との連携を密に行う。

重点的な取組事項－2 体力の向上

- 数値目標 全国体力調査8種目の結果について国平均を維持し、握力についても都平均以上とする。
- 実施結果 体力合計点においては、全学年、都平均値、全国平均値以上を維持した。
「握力」においても、1,3,4年の男子以外は全国平均値を上回った。
虫歯の治療率は、昨年度の64%から今年度85%に向上した。
- 課題と解決の方向性
 - ・人工芝、ミズノ貸与教具を活用し日頃の運動への更なる意欲向上と継続を図る。
 - ・握力・ソフトボール投げ・上体そらし・持久走は、引き続き重点的に指導する。
 - ・体育の準備運動等に固定遊具を使って握る様々な運動を継続する実行させる。

重点的な取組事項－3 保護者・地域との連携協力による教育活動の充実

- 数値目標 あいさつの習慣化（CS重点目標） 学校評価、児童自己評価「よい」85%以上
- 実施結果 学校評価「よい」95% 児童自己評価「よい」74%
- 課題と解決の方向性
 - ・保護者からの評価票の回収率が下がったが、今年度は「音楽会」「体罰」「投力」「学校評価」と同時期に4種類のアンケートが重なったためと考えられる。
 - ・今後も保護者・地域との連携支援を大切にして各取組を継続充実させていく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

- 学校評価では全ての項目で昨年度を維持し概ねよい評価をいただきました。大変うれしく思います。これも、本校の教育活動に深い理解をもってご協力いただいた保護者の皆様と、365日お力添えくださった開かれた学校づくり協議会、学校運営協議会、PTA活動や町会自治会子供会、多くのボランティア活動など、地域の皆様のおかげです。ありがとうございました。
- 根の深いいじめや崩壊に至るような学級の荒れはありませんでしたが、担任・当該児童の保護者・教職員全体で対応するケースはありました。虐待等による不登校もありません。「きまりを守らない」「ひとに迷惑をかける」等、自己抑制力の低下は、自己中心的な大人社会の影響もあると思われます。引き続き、家庭と学校の一貫した指導が大切です。
- 特別支援教室は開級二年を経過しました。この教室は、どの子どもも在籍学級で安心して学習ができるようになることが目的です。特別支援教室と連携し、低学年から個に応じて、ソーシャルスキルを身に付けさせ、児童の困り感に適切な対応を図り、全児童の自己肯定感の育成につなげています。
- 今年度コミュニティスクールとして重点に取り組んだ「歯の健康づくり」については、保護者の意

識改革が図られ、昨年度の治癒率 64%から今年度は 85%と大きく改善されました。しかし、まだ全員ではありません。口腔保健は健康に生きていくための体づくりの入り口です。児童が自分で努力するのは歯磨きですが、歯医者に連れていけるのは保護者だけです。

○継続は前進であると信じ、今年度も多くの取り組みを行いました。「学力」「体力」共に、客観的調査の結果に表れている児童の成長が大きな喜びです。これも、基本となるご家庭で「躰」や「早寝・早起き・朝ごはん」、「家庭学習の定着」等を教師の指導と連携しながらご協力いただいた成果です。教育にも不易流行がありますが「あいさつ・返事・後始末」は躰の基本です。学校・保護者・地域の三位一体、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
年度末校内再調査の通過率を国語・算数とも学校90%以上	国語・算数とも学校85%以上	区学力調査通過率 国語 90.6% (4月) → 93.9% (11月) 算数 91.9% (4月) → 91.3% (11月)	・国語も算数も通過率90%以上を達成した。 ・11月の再テストで9割を切った学級がある。年度末に再挑戦。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

重点的な取組事項－2 体力の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全国体力調査8種目の結果について昨年度結果の維持向上	都平均を超え、国平均を維持	・調査の好成績は維持、全学年、都平均全国平均値を上回った。	・握力投力は継続しながら柔軟性、持久力に注目していく。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎体力の向上	・全国体力調査8種目の国平均以上を保持増進する。	・1日60分運動 ・朝の体力づくり週2回の継続 実施内容の見直し充実 ・握力強化の継続 ・投力強化、持久力強化の実践 ・スポーツ指導ボランティアとの連携 ・オリパラ教育の推進	・握力に引き続き投力向上に取り組んだ。都平均、国平均を上回った。 ・オリパラ予算でのコンサートや保護者を巻き込んだ「ふくのわ・メタル」プロジェクト等に取り組んだ。 ・レガシーは「音楽会」「持久走」等に複合的に表出中。	・ニュースポーツ・ダンス・サッカー・ラグビー等専門家の指導は、児童自ら運動する態度に反映している。 ・人工芝を活用し、外遊び、1日60分運動の継続、朝の体力づくりを励行する。	◎
生活習慣の確立 学校保健行動計画の実施	・学校評価、児童自己評価ともに「よい」85%以上	・休業日明け「元気カード」の実施 ・保健便りの活用、学級指導の徹底	・休業日明けも生き生きと登校してきた子が多い。 ・虫歯未受診者へ直	・粘り強く理解を図り受診を勧めていく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防の徹底 ・虫歯治癒率の向上(特に低学年) ・幼保園、学童クラブへの啓発 ・安全意識の指導徹底 	接受診を勧めたが、75名中10名余が未受診のままである。 ・安全意識の向上には課題が残る。	<ul style="list-style-type: none"> ・規律違反や落とし物が増えている。緊張感をもって指導していく。 	
食への自己管理能力の向上 あだち食のスタンダードの定着	<ul style="list-style-type: none"> ・残菜率 1%以内 ・高学年は自分でごはんを味噌汁を作ることができる ・中学年農園での活動2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食便りの活用、学級指導の徹底 ・糖尿病予防の知識を身に付け、簡単な調理をさせる。 ・なるなる農園での体験活動を通して、食への感謝の気持ちを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度4～12月の残菜率は0.3%。更に食べて元気。 ・高学年は「ご飯と味噌汁」調理実習を実践した。 ・農園ボランティアさんへ手紙を書いたり、集いを開いたりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導徹底はできている。 ・農園の維持継続は危機。これまでボランティアさんのおかげで体験活動ができたことに感謝する。 	◎

重点的な取組事項－3 保護者・地域との連携協力による教育活動の充実

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者、地域人材との連携 あいさつの習慣化(CS重点目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価、児童自己評価ともに「よい」85%以上 	学校評価「よい」95% 児童自己評価「よい」78%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域との連携協力についての学校評価は「よい」98% 本当に感謝したい。 	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつの習慣化(CS重点目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価、児童自己評価ともに「よい」85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会主体のあいさつ運動の継続 ・大人同士もあいさつの励行を啓発 ・教育活動、情報の発信の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童会の活動も定着した。 ・明るい声で自分からできる子供がいる一方、不十分との声もいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の質を高めたい。 ・最高学年の6年生のリーダーシップに期待する。 	○
交通安全防災支援 ・交通安全ボランティア ・PTAボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登下校の見守り ・交通事故ゼロ ・交通安全指導の徹底 ・ボランティアとの連携 ・いじめの防止と対応 ・児童自助パックの設置 ・学級閉鎖の防止と対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全に関する安全教育 ・ボランティアや保護者による登下校見守り ・SNSルールの策定周知徹底 ・いじめ、不登校の防止、支援 ・インフルエンザや糖尿病等の予防 ・地域防災との連携 ・災害に備える授業、避難訓練の実施 ・SNSルールの策定周知徹底 ・交通事故、感染症の防止 ・いじめの防止、自己肯定感の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校の交通安全は地域保護者ボランティアに支えられている。感謝。 ・保護者ときまりに対する認識を共有し、きまり遵守の確実な指導を図る。 ・いじめや荒れのない学級経営の項目が「できていない」12%と全項目中一番よくなかった。 ・災害時の児童自助パックの設置と防災マニュアルの発行ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・綾瀬警察の見回りも犯罪の抑止につながっている。 ・SNSルールは確認と話し合いを常に行うこと。 ・いじめアンケートや教師の観察、保護者の連絡等により発覚した場合、即刻事実を確認し両者に対応した。保護者との風通しの良 	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
				い関係を大事にしたい。	
園芸支援 ・なるなる農園ボランティア	・生活科、総合的な学習の時間の中で体験学習や環境教育に位置づけ計画的に実施 ・ボランティアの確保	・なるなる農園の維持管理 ・花壇、ビオトープ等の保全と活用 ・スーパーソルガムの栽培 ・外部人材の活用	・学校評価「よい」91% ・4年生が環境教育の一環としてスーパーソルガムの栽培を行った。 ・ボランティアの方々と主事に花壇やビオトープ池を一年中整えていただいた。	・きれいな校舎と人工芝の校庭は児童の誇り。 ・スーパーソルガムの栽培は続けキャリア教育環境教育につなぐ。 ・正門前花壇の美化工事。	◎
図書支援 ・図書ボランティア	・各学年の読書目標の達成 ・図書支援員の活用 ・ボランティアとの連携	・読書カードの継続 ・必読リスト、学級文庫の設置と入替 ・感想文やお礼文で書く活動に残す ・自分で調べる子を育てる環境づくり	・各学年の必読リストが完成した。 ・調べ学習コンクールに全学年で取り組んだ。入賞者多数。 ・読書目標の達成率 低学年 51% 中学年 60% 高学年 76%	・本の貸し出し管理、読み聞かせや本の紹介、読書の啓発等、図書ボランティア、支援員、キッズパレットの貢献が大きい。感謝。	◎
学習支援 ・学習支援ボランティア ・スポーツ指導ボランティア	・全学年で年間を通じて実施 ・外部講師の活用 ・ボランティアとの連携	・基礎学力向上の支援、学習環境の整備 ・学生ボランティアの活用（理科教育の学習活動支援） ・児童の夢を応援する提案	・二分の一成人式、開かれた学校づくり協議会共催で家庭・学校・地域で児童を応援する体制を実感できた。児童は規律と協力の中で自信をもって個性を発揮できた。	・図書、英語、お米、昔遊び、スポーツ、学生、その他全ての授業支援ボランティアに深く感謝する。	◎
放課後支援 ・放課後子ども教室	・現状の維持 ・スタッフの確保、連携	・円滑な実施、避難訓練等への連携協力 ・夏休みの実施、日々の宿題教室の実施 ・下校指導の徹底、事故防止	・学校評価「よい」95% ・きまりが守れない児童の指導やけがの対応等、とても丁寧にしていただいた。	・来年度も夏季休業日中の図書室での実施是非お願いしたい。感謝。	◎

3. 学校活動全般について

○本校は「地域と共にある学校」として、地域・保護者・教師・児童がビジョンを共有実践し、「継続と一生懸命」をモットーに、手を携えて「礼・尊・律の獲得」「知・徳・体の調和」「個性を耕す多様な教育活動」に日々挑んでいる学校である。来年度も、2020年全面実施の学習指導要領を強く意識して実施していく。現状に慢心せず、教師児童共に意識を高くもって、これまでの取り組みを途切らすことなく努力を継続し、教育目標に迫りたい。

平成30年度 自己評価書<概要版>

足立区立大谷田小学校 学校長 相澤貞恵

1. 重点的な取組事項－1 学力の向上

(1)数値目標 4月の区学力調査の通過率85%以上、年度末の校内再調査の通過率90%以上

(2)実施結果 区学力調査(4月) → 校内再調査の目標値通過率(第一学年を除く全員)
国語 90.6%(4月) → 93.9%(11月)
算数 91.9%(4月) → 91.3%(11月)

(3)成果と課題

- 授業規律は定着している。引き続き、特別支援教室との連携を密に行う。
- △来年度の特別支援教室の担任が一人になるが、子供の需要は増加傾向。
- 言語表現活動、正確な読解力、既習を活用する力を育成する授業が展開された。
- 特別活動の充実により、主体的に学ぶ姿勢や協調性、粘り強く学ぶ態度の育成が図られた。
- 各学年の必読リストが完成した。調べ学習コンクールに全学年で取り組んだ。
- △読書目標の達成率 低学年 51% 中学年 60% 高学年 76%
- △特別活動が充実した一方、新学習指導要領の先行実施に伴う授業時数も増え教育課程が満杯、学校での読書や補充学習に十分な時間をとることが難しい。
- △11月の再テストで9割を切った学級がある。年度末まで補充学習を続ける。
- △家庭学習の自学ノートについて統一できなかった。年度末までに検討。
- 新学習指導要領の先行実施に伴う英語の研修で授業力向上が図られた。
- 来年度は、タブレットの導入に伴い、導入機器活用の授業力向上を図る。
- 「考え、議論する道徳」の充実を図り、心の教育を進める。

2. 重点的な取組事項－2 体力の向上

(1)数値目標 全国体力調査全8種目の結果について国平均の維持、握力についても都平均以上

(2)実施結果 体力合計点において、全学年、都平均値、全国平均値以上を維持した。
「握力」においても、1,3,4年の男子以外は全国平均値を上回った。

(3)成果と課題

- 投力向上に取り組んだ。都平均、国平均を上回った。
- 人工芝、ミズノ貸与教具を活用し、1日60分運動の継続、朝の体力づくりを励行する。
- 握力・ソフトボール投げ・上体そらし・持久走は、引き続き重点的に指導する。
- ニュースポーツ・ダンス・サッカー・ラグビー等スポーツ専門家ボランティアの指導に感謝。
- 虫歯の治療率は、昨年度の64%から今年度85%に向上した。
- △虫歯未受診者へは今後も粘り強く理解を図り受診を勧めていく。
- 休業日明けも生き生きと登校してきた子が多いが、安全意識の向上には課題が残る。
- △規律違反や落し物が増えている。緊張感を持って指導していく。
- オリパラ予算でのコンサートや保護者を巻き込んだ「ふくのわ・メタル」プロジェクト等に取り組んだ。オリンピック・パラリンピック教育の柱となるレガシーは「音楽会」「持久走」等にも複合的に成果が表れた。今後も、障害者理解、自己実現への努力継続、ボランティア精神の涵養を進める。

3. 重点的な取組事項－3 保護者・地域との連携協力による教育活動の充実

- (1)数値目標 あいさつの習慣化 (CS 重点目標) 学校評価、児童自己評価「よい」85%以上
- (2)実施結果 学校評価「よい」95% 児童自己評価「よい」78%
- (3)成果と課題

○保護者からの**評価票の回収率**83%、昨年度より数%下がったが、今年度「学校評価」の依頼は「音楽会」「体罰調査」「投力アンケート(2・4年)」と重なった中で、よくご協力いただいた。

○保護者・地域との**連携協力**「よい」98% CS 及び PTA組織のおかげである。感謝。

○**登校の交通安全**は地域保護者ボランティアに支えられている。感謝。

○**災害時の児童自助パック**の設置と**防災マニュアル**の発行ができた。

△いじめや荒れのない学級経営の項目の「できていない」が12%と全項目中一番高い。
いじめアンケートや教師の観察、保護者の連絡等により発覚した場合、即刻事実を確認し両者に対応した。今後も、保護者との風通しの良い関係を大事にしたい。

○保護者ときまりに対する認識を共有し、**きまり遵守**の確実な指導を図る。

○大学連携ボランティアの協力により、現学習指導要領に即した**理科室**に整備された。感謝。

○図書ボランティアやキッズスタッフによって、**図書室**の活用が十分に図られた。感謝。

○**外部人材活用**によるキャリア、環境、英語、食育、オリパラ教育等ボランティアに感謝。

○農園ボランティアによる**農園の管理、児童の体験活動の場**の提供に感謝。
維持が難しい場合、来年度からの農園活動は一時休止する。

○**二分の一成人式**は、開かれた学校づくり協議会共催で家庭・学校・地域で児童を応援する体制を実感。児童は未来に向かって歩む自分をイメージする機会がもてた。

4. 保護者や地域へのメッセージ

- 本校は「地域と共にある学校」として、地域・保護者・教師・児童がビジョンを共有実践し、「継続と一生懸命」をモットーに、手を携えて「礼・尊・律の獲得」「知・徳・体の調和」「個性を耕す多様な教育活動」に日々挑んでいる学校です。
- 学校評価では概ねよい評価をいただきうれしく思います。これも、本校の教育活動に深い理解をもってご協力いただいた保護者の皆様と、365日お力添えくださった開かれた学校づくり協議会、学校運営協議会、PTA活動や町会自治会子供会、多くのボランティア活動など、地域の皆様のおかげです。ありがとうございました。
- 根の深いいじめや崩壊に至るような学級の荒れはありませんでしたが、担任・当該児童の保護者・教職員全体で対応するケースはありました。併せて「きまりを守らない」「ひとに迷惑をかける」等、自己抑制力の低下には、家庭と学校の一貫した指導が不可欠です。
- 特別支援教室は開級2年を経過しました。この教室は、どの子も在籍学級で安心して学習ができるようになることが目的です。特別支援教室と連携し、個に応じた、ソーシャルスキルを身に付けさせ、児童の困り感に適切な対応を図り、全児童の自己肯定感の育成につなげています。
- 今年度コミュニティスクールとして重点に取り組んだ「歯の健康づくり」については、保護者の意識改革が図られ、昨年度の治癒率64%から今年度は85%と大きく改善されました。口腔保健は健康に生きていくための体づくりの入り口です。児童が自分で努力するのは歯磨きですが、歯医者に連れていけるのは保護者だけです。
- 継続は前進であると信じ、今年度も多くの取り組みを行いました。「学力」「体力」共に、客観的調査の結果に表れている児童の成長が大きな喜びです。これも、基本となるご家庭で「躰」や「早寝・早起き・朝ごはん」、「家庭学習の定着」等を教師の指導と連携しながらご協力いただいた成果です。教育にも不易流行がありますが「あいさつ・返事・後始末」は躰の基本です。
- 来年2019度は、2020年度の三大実施事案の準備期間となります。①新学習指導要領、②東京オリンピック・パラリンピック、③本校創立70周年の十分な成果を得られるよう努めます。学校・保護者・地域の三位一体に、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。